

## 歴史部会の部会運営

早稲田大学 鎮目 雅人

本稿（項）では、2014年度から2023年度までの10年間における歴史部会の運営および活動状況について紹介する。

### 1. 運営体制

幹事は2011年度～2014年度まで岸田真（日本大学、以下敬称略、所属は就任時）が務めた後、2015年度から鎮目雅人（早稲田大学）が務め、2017年度の学会規則改正により鎮目が代表幹事となり現在に至っている。2018年度に幹事に佐藤政則（麗澤大学）、矢後和彦（早稲田大学）の両名が就任、2021年度から上記に加え、永廣顕（甲南大学）、平山賢一（東京海上アセットマネジメント）、邊英治（横浜国立大学）が幹事に就任している。

### 2. 活動状況

表 歴史部会開催数および報告数

年度	開催数	例会	その他	報告数	教員等*	大学院生	実務家	外部招聘	日本関係	海外/国際関係
2014	2	2		4	4				3	1
2015	3	3		6	4	2			5	1
2016	4	3	1	9	4	2	1	2	6	3
2017	3	3		9	6	3			5	4
2018	5	3	2	13	8	1	2	2	5	8
2019	3	2	1	5	3		1	1	4	1
2020	4	3	1	14	11		3		12	2
2021	4	4		8	6	1	1		7	1
2022	5	5		16	15		1		11	5
2023	4	4		11	6	4	1		7	4
合計	37	32	5	95	67	13	10	5	65	30

表に2014～2023年度の歴史部会の開催状況を示している。年2～5回の例会（他部会との合同開催を含む）のほか、外部機関との共催によるワークショップや招聘セミナーを随時開催している。このうち、2016年7月には、麗澤大学経済社会総合研究センターとの共催により、中国社会科学院経済研究所の研究員を招聘して公開研究会を開催した。2018年11月には、早稲田大学ソーシャル&キャピタル研究所ならびに早稲田大学現代政治経済研究所との共催により、世界各地の金融制度の発展に関する国際ワークショップを開催したほか、2019年3月および同年7月には、早稲田大学現代政治経済研究所ほかとの共催により、海外研究者を招聘してセミナーを開催した。例会では、個別の研究報告のほか、全国大会における歴史部会主催パネルの準備報告会も実施している。また、2017年11月には関西部

会、2021年7月には中央銀行部会との合同部会を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、2020年7月からオンラインによる開催に切り替え、2022年10月から対面とオンラインのハイブリッド形式に移行して現在に至っている。オンラインでの参加も多く、対面とオンラインをあわせて概ね30名程度の参加者がある。

報告者の内訳をみると、約7割（95本中67本）が教員等（名誉教授および非常勤を含む）であり、次いで大学院生（13本）、実務家（10本）、外部招聘（5本）の順となっている。また、報告の7割弱（65本）が日本関係、残りの3割強（30本）が海外ないし国際関係となっている。

以上